

SDGsに取り組む各種団体等の特集記事

2022年度 マンスリーSDGs（北日本新聞） 第1回掲載日 2022年9月28日

子どもたちにも届けたいSDGs

富山市は「SDGs未来都市」に認定されてから今年で5年目を迎えました。市民や企業にSDGsについての理解が深まり、一人一人が具体的な行動に移すことが期待されます。今回は、将来を担う子どもたち向けの取り組みなどを紹介します。

社会福祉法人宜長康久会 ささづ苑

特別養老ホーム「ささづ苑」は、子どもたちのふれ合いと施設利用者の元気づけを目的に、同苑で「プレイセンター」(富山市下大林)で神遊館から年生と「スポーツ」を通じた交流を開きました。

新たな発見に世代間交流

地域の民生委員や同苑の職員と児童らが「だれもが安心・安全に暮らせるまち」をテーマに、SDGsの視点に沿って「困りごと」を分ち合えることを出し合いました。SDGsを中心に、世代間交流や地域の問題の発見、共通課題の理解などが図られました。

富山市立豊田小学校

富山市は、市民中心となって温室効果ガスの削減を目指す「チームやまじ」の事業の一環として、小学生に環境について考えをもう出前講座を開催。イベントを通じて、児童の環境意識を高め、SDGsにも関心を持ってもらいたいと考えています。

環境意識高めSDGsに関心を

体験した北野真君は「すくすく」ができた。100年後の気温が40度を超えるかもしれないなど、世界にはさまざまな問題があると分かったと話しました。

大和富山店 × ハゲオール

大和富山店は、今年8月に「ダイワSDGsストア」を開催しました。関連イベントとして、6階ホールで「フックオフ」イベントを開催。SDGsをテーマにした「SDGsストア」が開かれました。

将来世代へイベントで発信

立が大事。将来を担う子どもたちのためにも、この機会に「エコ消費」の在り方を伝える機会を設けたいとしました。大和富山店の安井忠則販売促進部長は「日頃の業務からお客様のSDGs意識の高まりを感じることが増えた。また実施した「エコ消費」の買い取りや販売、不用品の回収も



豊田小学校で開かれた「SDGsストア」の様子



「すくすく」を楽しく児童に伝える豊田小学校



小学生と交流する施設利用者と職員

企業がすすめるSDGs

富山市は「SDGs未采都市」に認定されてから今年5年目を迎え、市民や企業のSDGsへの理解や実践が期待されます。今回は、企業がどのようにSDGsに着手し、どのような効果があったのかを紹介し、これから取り組みたい企業のヒントとします。

タニハタ



技術者を育てるために、木の屑の再利用。

組子建具などを製造するタニハタ(富山市上赤江)は、木材を使う会社ならではの取り組みでSDGsを推進しています。組子は、釘を使わずに木を幾何学文様に組み付ける伝統木工技術。製品に木を多く用いるため、杉やヒノキなどの原材料はできるだけ産地から調達しています。工程で生まれたおがくずは、自社内で圧縮して六六レット加工し、冬季の暖房の燃料に再利用しています。社内は太陽光発電や水力発電を使用しCO₂の排出が少なく、省電力のみでまかなうなど脱炭素の取り組みを推進。2021年には環境省の

伝統木工技術から脱炭素実現へ

外の顧客が来社した際に、日本の伝統文化を感じてもらいたいという思いもあり、谷端社長は、県内に来社生は、組子だけでなく環境への関心が高く、私たちが客さまから受け取られることも多い。SDGsへの意識の高まりはビジネスチャンスにもなっており、これからも進めたいと話しています。

前田建設



耐震工事の進捗や目的について説明する同社社員。

小学生とともに理解深める

前田建設(富山市安住町)は、担当した同市の久保小学校の耐震工事をきっかけ、「建設業が取り組むSDGs」について出前講座を開催。校内の工事現場を見学するだけでなく、建設業がどのようにSDGsに取り組んでいるかを同社員が講師となり実施しました。現場に設置されたSDGsの分別ボックスの意味や、耐震工

テレ通



ZEBに加入、富山市災害時等協力事業所の機能も果たす。

新社屋契機に環境と防災強化

ルギー(ゼロ)の認定を受けました。太陽光パネルによる自家発電に加え、モバイルバッテリーを備蓄していることや、災害時、地域住民がスムーズに避難できることなどを「富山市災害時等協力事業所」に認定され、社内で住民受け入れのことが可能になっています。指定避難所とな

SDGs 広がりつながる

富山市は「SDGs未采都市」に認定されてから今年5年目を迎え、市民や企業のSDGsへの理解や実践が期待されます。今回は、市民向けにどのような取り組みが広がっているかを紹介し、私たちが何ができるのかを知るヒントとします。

富山広域連携中核都市圏



富山市は、市まちなか総合アセンタ(総合ビル)でSDGsセミナーを開催。富山広域連携中核都市圏の職員や民間企業・団体、学生など約20人が参加しました。講演やワークショップ、カードゲームを通じた自治体職員間や産学官民の交流を図るとともに、SDGsへの理解を深めました。講演では、SDGsコンサルタントの中島達朗さんや、地方自治体や民間企業の事例を挙げ、2030年まで目標達成することの重要性を説明。職場や学校、日常生活での課題と

まちづくりのヒント探る

それぞれの立場から地域の課題解決を目指すもので、環境や経済などを好循環につなげるためには対話が重要だと認識しました。参加した富山中部中学校の女子生徒は「よりよい未来を求め、取り組んでいる地域や企業、人に応援したい」と話しました。

フューチャリティ ファアポレ



循環型社会 買い物物客と

リサイクルキャンペーンを実施。家庭で不要になった衣料品などを店内で回収し、NPO法人リサイクルエシエンジャパンを通じリサイクル業者に売却。同法人を通じて、利益をママやパトナムの支援に充てる仕組みです。また店内の一部店舗で使用できるクーポンを発行するなど、参加し

ボディセンス・インスティテュート



子どもの未来 両親学級から

年5月から「企業主導型両親学級」を開始しました。コロナ禍で既存の両親学級が中止やオンラインになる中、ヨガ教室などを運営する同法人の高橋出紀代表理事が、妊産婦の不安解消につなげたいと企画。趣向に富山民間企業や自治体の協賛で、全5回にわたる講座を開いて

